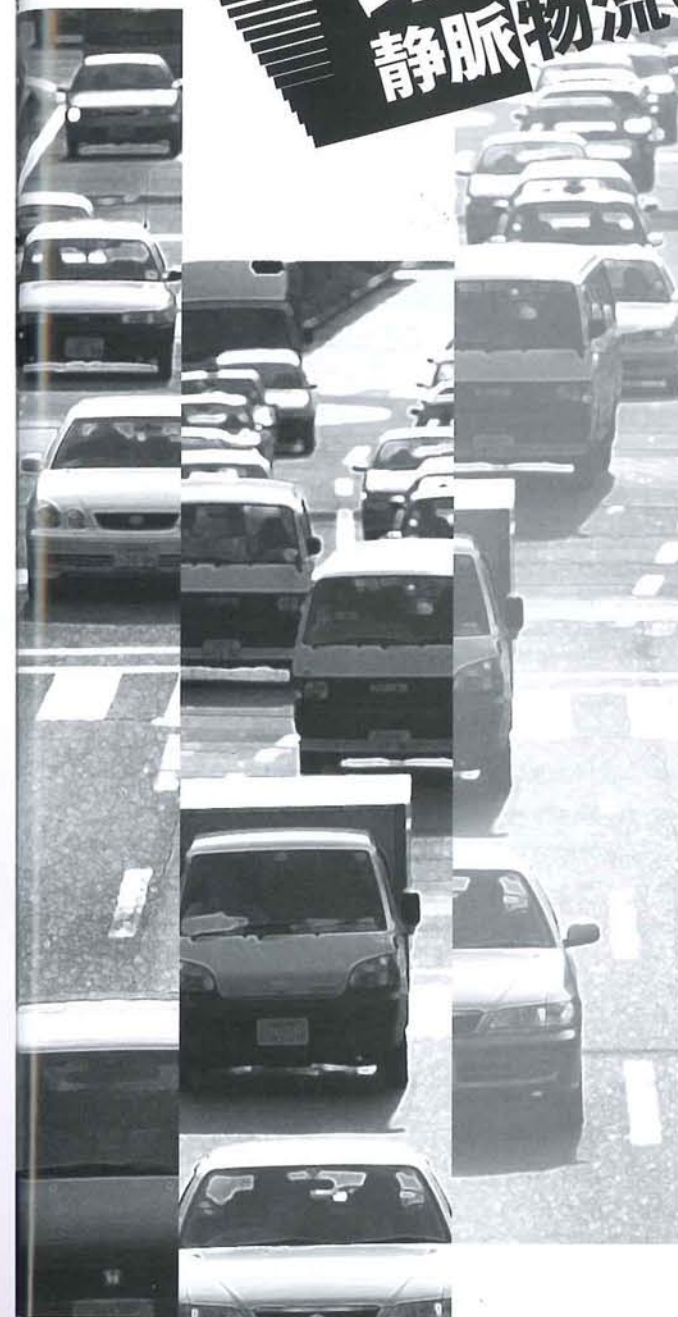


一大転換期を迎える業界を支援するオピニオン誌



特集1
環境ビジネスの
新たなかたち
 ～転換・多角化・新規事業の創出と進出～

特集2
徹する! 収運プロフェッショナル
 ～躍動する静脈物流の担い手～



特集2
徹する!
収運プロフェッショナル
躍動する
静脈物流の担い手

循環資源の移動が国内のみならず海外も含め広域化していくなか、ポイントとなってくるのが収集運搬である。国土交通省が策定した「総合物流大綱」(2009～2013年)では、グリーン物流の実現が政策目標として掲げられているが、そのなかには「静脈物流システムの形成」も盛り込まれている。リサイクルポートの指定など推進し、適正な処理・輸送を確保した上で、効率的な静脈物流システムの構築を推進していく必要がある、としている。

収集運搬専門業者は、その業務に特化して業容を拡大し、排出側と処理・処分・再生利用側の間に立ち、双方にネットワークを形成し巧みにマッチングさせていくかが腕の見せ所となる。ある時は、処理・処分業者の有能な営業マンとして、またある時は処理・処分先を探してつなげるコンサルタントとして、その仕事は多岐にわたる。

一方で、大手の中間処理業者にとっては、収集運搬部門が企業としての動脈の役割を果たしている。物の流れ、血流が滞るとコストは跳ね上がり、売上げにも深刻な影響が及び兼ねない。

その意味で、中間処理であれ、最終処分であれ欠かせないのが質の高い収集運搬業の存在といえよう。今回の特集では、東西の特徴ある収集運搬を手掛ける企業を訪問、その秘訣に迫る。

- レポート**
- 050 (株)黒姫(東京都)
 - 052 (株)アドバンティク・レヒューズ(群馬県)
 - 054 (株)藤谷(岐阜県)
 - 056 安田産業グループ(京都府)

